



カリキュラム／教師教育両コンポーネント活動状況 (2020年11月)

新型コロナウイルスの影響が世界各地へと広がっています。前月号に引き続き、今回も、ミャンマーの学校の現状と、プロジェクトの状況をご報告します。

ミャンマーの学校の現状

新型コロナウイルスの影響で新学年開始は、通常より2ヶ月近く遅れた7月21日に高校、8月4日に中学校、8月中旬に小学校と予定されていました。しかし高校の開始予定日直前に出された保健省通達では、一律の開始ではなく、基準を満たした学校から順次新学期が開始できることが示されました。その結果、予定どおり開始できた高校は半数あまりの約4,000校。この通達は、すべての高校が授業を開始してから1か月間新型コロナウイルスの感染者が出なければ中学校を開始、すべての中学校が授業を開始してから1か月間感染者が出なければ小学校の授業開始を許可するという厳しいものでした。

そんな中、8月下旬に市中感染が確認され始めると、数日の内に感染者数が一日100人を超えるペースに増加するという事態が起こりました。

その結果、8月27日には感染対策基準をクリアし、既に授業を再開した学校を含めすべての基礎教育学校が休校となりました。その後9月下旬には一日1,000人程度の新規感染者が報告されるようになり、現在も同様の状況が続いています。

教育省は、国内の感染が収束するまでは学校を再開しない方針です。今後数カ月の感染推移の予測は困難であるため、再開がいつになるのか、また今年度中に学校が再開できるのかどうかもわかりません。10月10日には、来年の長期休暇の短縮や、最悪の場合は今学年をスキップすることを考える必要がでてくる可能性があるとの見解も報道されました。

いずれにしても休校が長期にわたることは確実になったため、何とか子ども達の学習を継続させるため、8月に配布が決定された休校期間用の自宅学習教材だけでなく、今年度の学習を進める自宅学習についても計画が進んでいます。教科書や教材の配布のほか、教育省のオンラインプラットフォーム（Myanmar Digital Education Platform: MDEP）やその上に設けられたDBE Boxサイト、テレビ、ラジオ等さまざまな媒体で学習をサポートする資料を配信する予定です。



子どもたちのいま

プロジェクトでは新カリキュラムを紹介するウェブサイト上に設置したアンケートにコロナ下の子どもたちの状況について尋ねる設問を追加し、ミャンマーの皆さんの声を募集しています。これまで寄せられた意見（現地スタッフからの聞き取りの結果も含む）をご紹介します。

最近の子どもたちの様子については、以前のように学校に行きたがっている、いつ学校が開くの？と質問されたという声もある一方で、学校に行くのが心配と言っているという声が寄せられました。子どもたちの状況への懸念に関しては、マスクをずっとつけさせておくことや、友達と遊びたい子どもたちにソーシャルディスタンスを保たせるのが難しいことから感染のリスクが心配という声もありました。

新型コロナ禍による規制が続く中で家庭学習については、インターネットへのアクセスがある家庭ではオンライン学習に子どもたちが興味をもって取り組んでいるという声があった一方で、インターネットへのアクセスがない家庭も多いことから、無料でインターネットへのアクセスを確保してほしい、学校の閉鎖が続くようであれば教科書を先に配ってほしい、という意見もありました。また、家庭学習では子どもたちの集中力を継続させることや、協同的に学び、協力しあう心を育むのが難しい、という「教育の質」についての不安も聞かれました。

学校再開後については、もし、2部制などが取られた場合は教師の負担が増加してしまうことへの懸念や、感染防止のために必要な備品を整えることが必要、といった声が寄せられています。

プロジェクトでは今後もウェブサイトや Facebook 等を活用しながら、ミャンマーの方々のご意見を募集し、プロジェクト活動に生かしていく予定です。

プロジェクトの現状

8月下旬以降の感染拡大を受け、9月9日からは交代制の在宅勤務、9月末に原則としてタウンシップ間の移動が禁止されたことを受け、10月1日からは、教育省のカウンターパート以外の現地スタッフは再び全面的な在宅勤務とせざるを得なくなったところです。

5年生の教科書と教師用指導書の最終稿締切を目前に控え、原稿のレビューと修正作業にスパートがかかっています。教科書執筆者グループ（Curriculum Development Team: CDT）とプロジェクト専門家がオンライン会議で検討したドラフトを教科別カリキュラム委員会（Subject-Wise Curriculum Committee: SWC）に提出、ほとんどの場合は検討会議（オンラインもしくは対面）を経て修正版を作成、SWCが承認した原稿を最終的な承認機関である国家カリキュラム委員会（National Curriculum Committee: NCC）に提出します。大変シニアな先生方から成るSWCやNCCとの検討会や訂正事項の伝達はオンラインのツールだけでは難しいため、オンラインや電話等のコミュニケーションと印刷物のやりとりを取り混ぜて行われています。

このように教科書開発も佳境である中、どうか時間を捻出し、教育省や他ドナーと緊密に調整しながら、コロナ下で生じた新たなニーズに対応するための追加の活動も進めています。

休校中の学習支援

教育省は閉校中の遠隔教育や系統だった学習指導は行わないとの意向を表明していましたが、小学校の再開がいつになるかわからない状況になったことから、プロジェクトが作成した休校中の自宅学習用教材が配布されることになりました。

現在は、その配布が決定した前年度の復習用教材（5教科）4週間分、6月に実施された新カリキュラム導入のためのオンライン研修への支援、コロナ下の授業時数の減少や感染予防対策をふまえたカリキュラムの調整（10教科）に続き、短縮版カリキュラムに基づいた自宅学習教材（3教科）を作成しています。

コロナ下の学びをどう実現していくのか、感染対策を講じながらの児童中心型教育について伝えるビデオは、撮影やアニメーションなどの編集指示を遠隔で行う難しさを乗り越えてついに完成しました。ミャンマーでは現在の休校中、そして学校再開後にも自宅学習が取り入れられる見込みであり、保護者の果たす役割がより大きくなっていることから、ビデオでは、先生方だけでなく、保護者の方々に向けても、子どもたちの感染予防策や、学びに対する支援の仕方を発信しています。現状では授業ができないのですべての内容が活きてくるのはもう少し先になりそうですが、こういう時だからこそ、物理的な条件よりも「学ぶ子どもに向き合う姿勢」をもう一度考えていただくきっかけになればと思っています。



作成したビデオの一場面



ビデオは保護者へのメッセージも含んでいます

その他の映像資料としては、教育省が自宅学習の本格導入を決定したことを受け、教科別に自宅学習のすすめかたを説明するビデオ（5教科）を制作中です。また、教育省が授業代替映像の制作・放映をするために参考としてもらうべく、台本サンプルを作成しています。

国内研修あらためてオンライン研修

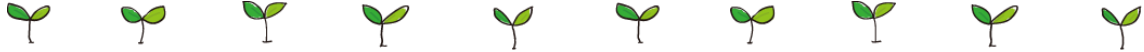
5月に行う予定だったカウンターパートを対象とした本邦研修は中止となりましたが、代わりにオンラインでの研修を、8月24日から5日間にわたって開催しました。日本側の講師、国内研修担当専門家、参加者と通訳者がいるミャンマーのプロジェクトオフィスをZoomで繋いで実施し、本邦であれば座学の講義と学校訪問などを組み合わせるところ、座学のみとなるため、授業ビデオを試聴しながら解説を受けるタイプの講義を交える等、プログラム内容を工夫しました。はじめての試みではありましたが、日本側・ミャンマー側双方の入念な準備により、接続等のトラブルもなく日程を終えることが出来ました。はじめは参加者のカウンターパートも緊張している様子が見受けられましたが、徐々に慣れ、積極的な質疑応答や日々のリフレクションが行われました。また、最終日には、本邦研修と同じように、修了式が実施され、JICAより修了証書が授与されました。



オンライン研修の様子



修了式での記念撮影



これからミャンマーの教育がどうなっていくのか、短期的にはまったく見えません。けれども、こうして学校が開かなくても子どもの学びを継続させるために行う準備は、きっとこの後、もっと柔軟な学校教育のあり方を検討するプロセスにつながっていくのではないかと考えています。ミャンマーの子ども達が「学び」に戻ってくる日が一日も早く来ることを願います。

文責： 宮原光、大津璃紗
(プロジェクト・コーディネーター)
株式会社パデコ